

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

船橋市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日時

平成30年4月17日(火)

(3) 調査対象及び参加児童生徒数

- ・小学校第6学年（54校5,456名）
- ・中学校第3学年（27校4,710名）

(4) 教科に関する調査

①小学校 国語A、国語B、算数A、算数B、理科

②中学校 国語A、国語B、数学A、数学B、理科

※Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題

(5) 生活習慣や学校環境等に関する調査

①児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査

②学校における指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等の調査

(6) 本市の調査結果

①教科に関する調査結果（平均正答率）

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
船橋市	69.0	55.0	62.0	52.0	61.0
千葉県	70.0	53.0	62.0	51.0	61.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
船橋市	77.0	63.0	66.0	48.0	66.0
千葉県	76.0	61.0	64.0	46.0	65.0
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

※文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県・市の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

※全国は、公立小中学校の平均正答率を示す。

2 教科に関する調査の結果について

(1) 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別の比較

平均正答率の状況について詳細な把握を行うために、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別に全国と船橋市との比較を行った。

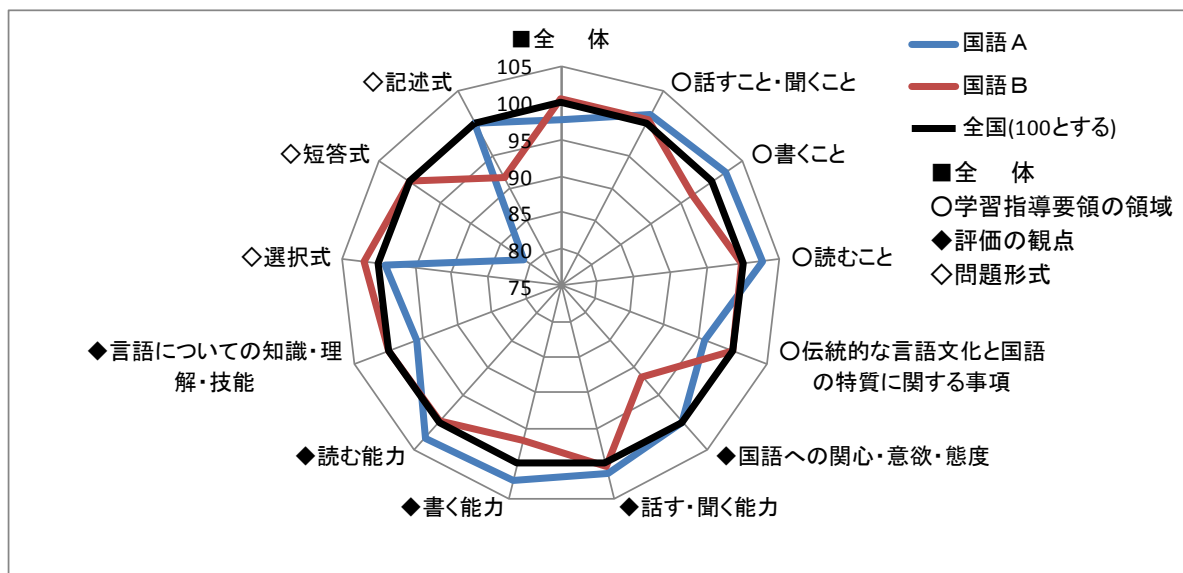
《小学校》 国語

※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

国語		A 主として「知識」に関する問題			B 主として「活用」に関する問題			A知識	B活用	
		船橋市	千葉県	全国	船橋市	千葉県	全国	全国との差	全国との差	
平均正答率(%)	全体	69.0	70.0	70.7	55.0	53.0	54.7	▲ 1.7	0.3	
	学習指導要領	話すこと・聞くこと	92.1	91.0	90.8	64.9	62.7	64.6	1.3	0.3
		書くこと	75.5	73.0	73.8	44.1	43.7	45.6	1.7	▲ 1.5
		読むこと	76.0	74.3	74.0	50.7	50.3	50.8	2.0	▲ 0.1
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.3	65.9	67.0				▲ 2.7	
	評価の観点	国語への関心・意欲・態度				30.4	30.5	33.2		▲ 2.8
		話す・聞く能力	92.1	91.0	90.8	64.9	62.7	64.6	1.3	0.3
		書く能力	75.5	73.0	73.8	44.1	43.7	45.6	1.7	▲ 1.5
		読む能力	76.0	74.3	74.0	50.7	50.3	50.8	2.0	▲ 0.1
		言語についての知識・理解・技能	64.3	65.9	67.0				▲ 2.7	
	問題形式	選択式	73.2	73.6	73.9	69.0	67.2	67.6	▲ 0.7	1.4
		短答式	28.8	30.0	35.5				▲ 6.7	
		記述式				30.4	30.5	33.2		▲ 2.8

※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



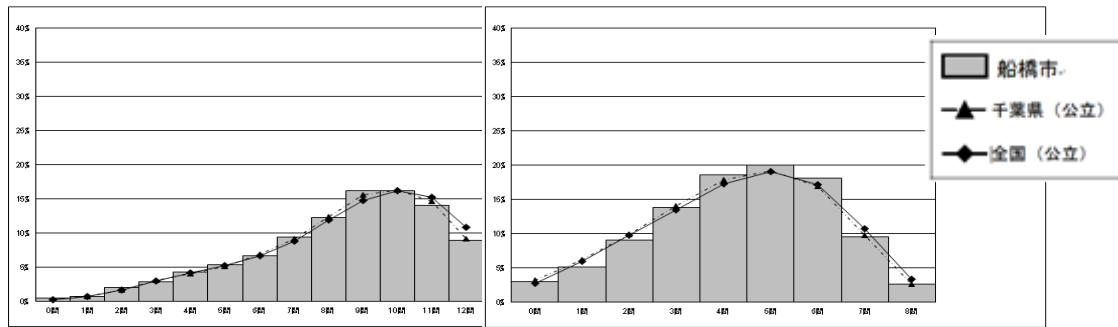
※全国を100として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

※国語Aの「◆国語への関心・意欲・態度」「◇記述式」、国語Bの「○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「◆言語についての知識・理解・技能」「◇短答式」については該当する問題がないので、100(全国と同様)としてグラフを作成

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔国語A〕

〔国語B〕



傾向

- ・ 全国の平均正答率と比べると、国語A「知識」に関する問題では「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」ともに高い傾向にあるが、「言語についての知識・理解・技能」に課題がある。国語B「活用」に関する問題では、「話す・聞く能力」が若干高かった。また、国語A「知識」に関する問題の「文の中で漢字を使う」、国語B「活用」に関する問題の「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」での無解答率が全国と比較し、高い割合であった。
- ・ 正答数の分布は、国語A・国語Bともに全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示しており、最頻値の人数の割合は、国語Aは全国・県とほぼ同じ、国語Bは全国・県よりも高かった。

課題が見られた主な設問

- 国語A：8オ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
(せつ極的) (正答率 船橋市 42.4 全国 51.4)
- 5 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」 (正答率 船橋市 28.8 全国 35.5)
- 国語B：1三「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」 (正答率 船橋市 30.2 全国 33.8)

学習指導のポイント

- ・ 漢字の指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるように指導することも大切である。
- ・ 主語と述語との関係については、表現する時だけではなく、文章を読むときにも強く意識できるように指導することが大切である。
- ・ 国語B：1では、学級において、自分たちの言葉の使い方を見なすために立場を決めて話し合う場面を設定している。計画的に話し合うためには、司会者、提案者、参加者それぞれの役割を捉え、話合いの目的に応じた進行や互いの発言の意図を理解することの大切さに気付くことが重要である。話合い活用の場を多く経験することに加えて、話合い活動を振り返る学習も重要である。

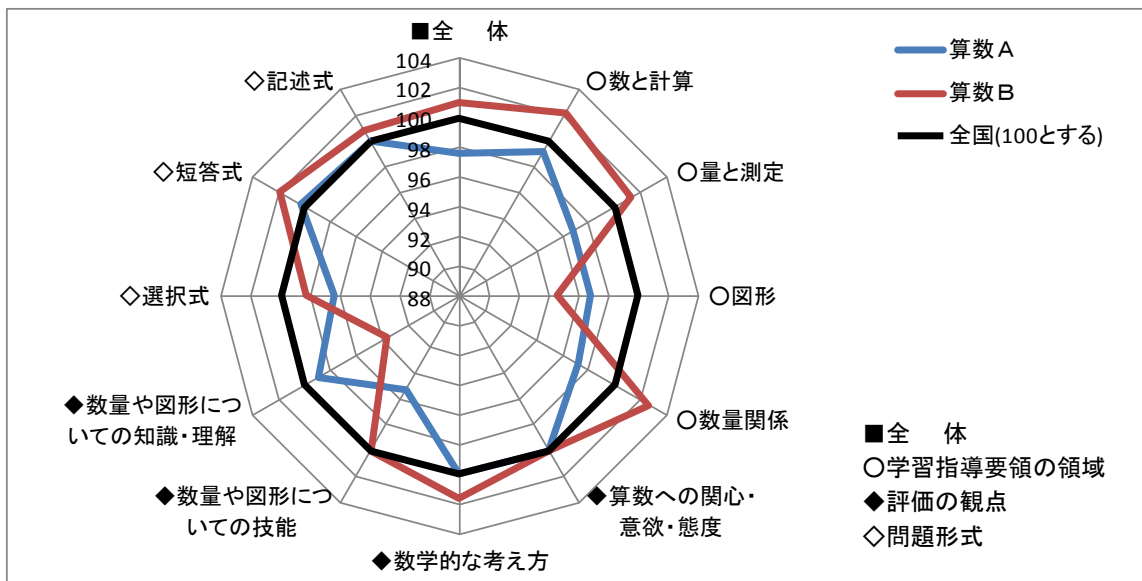
《小学校》 算数

※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

算数		A 主として「知識」に関する問題			B 主として「活用」に関する問題			A知識	B活用	
		船橋市	千葉県	全国	船橋市	千葉県	全国	全国との差	全国との差	
平均正答率(%)	全体	62.0	62.0	63.5	52.0	51.0	51.5	▲ 1.5	0.5	
	学習指導要領の領域	数と計算	61.8	61.3	62.3	59.7	58.1	58.4	▲ 0.5	1.3
		量と測定	70.4	70.5	72.7	53.1	51.5	52.4	▲ 2.3	0.7
		図形	55.1	56.1	56.9	56.6	57.1	59.9	▲ 1.8	▲ 3.3
		数量関係	58.4	60.1	60.1	46.3	44.5	45.1	▲ 1.7	1.2
	評価の観点	算数への関心・意欲・態度	/	/	/	/	/	/	/	/
		数学的な考え方	/	/	/	50.0	48.5	49.2	/	0.8
		数量や図形についての技能	60.0	60.9	63.0	/	/	/	▲ 3.0	/
		数量や図形についての知識・理解	63.1	63.2	63.8	67.1	69.3	71.7	▲ 0.7	▲ 4.6
	問題形式	選択式	59.6	60.4	61.8	53.1	53.8	54.0	▲ 2.2	▲ 0.9
		短答式	68.0	67.3	67.8	67.9	65.9	66.6	0.2	1.3
		記述式	/	/	/	44.3	42.5	43.9	/	0.4

※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



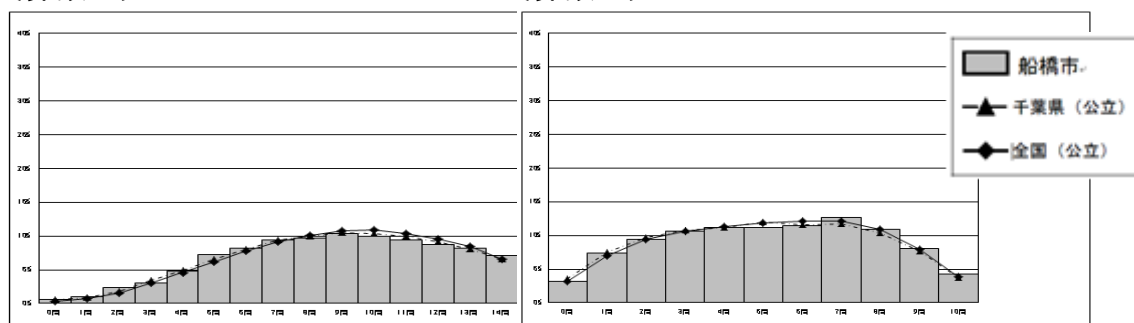
※全国を 100 として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

※算数Aの「◆数学的な考え方」「◇記述式」、算数Bの「◆数量や図形についての技能」ABともに「◆算数への関心・意欲・態度」については該当する問題がないので、100(全国と同様)としてグラフを作成。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔算数A〕

〔算数B〕



傾向

- ・全体としては、全国の平均正答率と比べると、算数A「知識」に関する問題では平均正答率が低く、算数B「活用」に関する問題では平均正答率が高い傾向にあるが、「図形」の領域に関しては課題がある。
- ・無解答率は、算数Aでは「百分率を求める」「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」問題、算数Bでは「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」問題で全国の割合に比べて高かった。
- ・正答数の分布は、算数A・算数Bともに全国・県とほぼ同様な分布を示している。正答数の高い階級での本市の割合は、算数Aでは下回り、算数Bではやや上回っている。

課題が見られた主な設問

- 算数A：1 (2)「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」(正答率 船橋市 58.5 全国 66.7)
- 7 (2)「直径の長さとお円の長さの関係について理解している」
(正答率 船橋市 49.2 全国 55.6)
- 4 (1)「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している」(正答率 船橋市 82.6 全国 87.8)

学習指導のポイント

- ・第4学年「小数のわり算」の小数倍や第5学年「小数÷小数」の導入の内容を振り返らせ、テープ図と数直線を用いて数量の関係を的確に捉えられるようにする。
- ・第5学年「円と正多角形」では、直径の長さが2倍になるとき円周の長さも2倍になるという関数的な見方を、作業的・体験的な活動を通して確認することが大切である。
- ・第5学年「単位量あたりの大きさ」や第6学年「速さ」の学習で、一方の量をそろえてもう一方の量の大小で比べたり、1あたりの量の大小で比べたりする活動をとおして、単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解させる。
- ・身に付けるべき知識はきちんと指導し、適用問題の時間を確保して、確実に技能が定着するまで繰り返し練習問題に取り組みさせることが必要である。

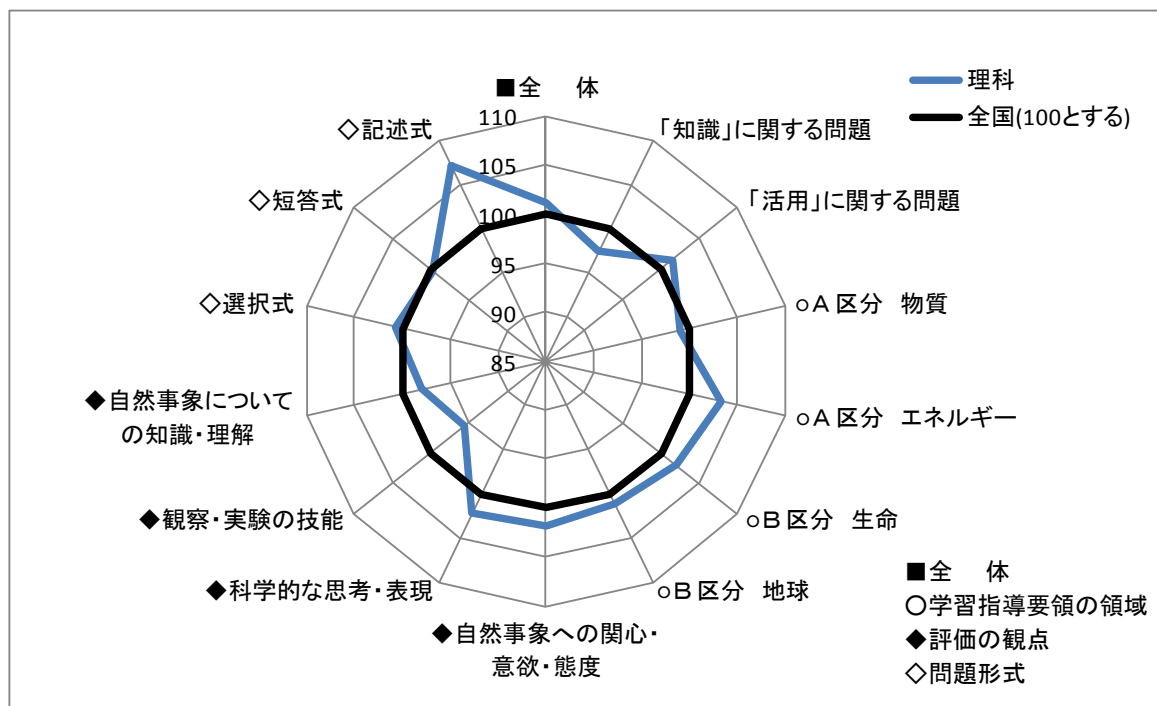
《小学校》 理科

※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

理 科		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
平均正答率(%)	全 体	61.0	61.0	60.3	0.7	
	枠組み	主として「知識」に関する問題	76.0	79.0	78.0	▲ 2.0
		主として「活用」に関する問題	57.0	57.0	56.2	0.8
	学習指導要領の領域	A区分 物質	59.2	61.7	59.8	▲ 0.6
		A区分 エネルギー	54.9	53.7	53.1	1.8
		B区分 生命	75.1	74.5	73.6	1.5
		B区分 地球	50.1	49.9	49.5	0.6
	評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	83.6	82.8	82.1	1.5
		科学的な思考・表現	55.3	54.9	54.1	1.2
		観察・実験の技能	67.9	73.0	71.1	▲ 3.2
		自然事象についての知識・理解	79.8	82.2	81.5	▲ 1.7
	問題形式	選択式	64.3	64.8	63.8	0.5
		短答式	79.1	79.9	79.4	▲ 0.3
		記述式	30.0	28.1	28.0	2.0

※斜線は該当する設問が無いもの

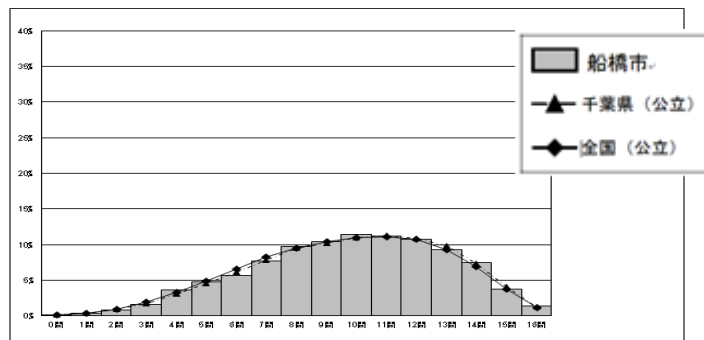
平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

[理科]



傾向

- ・全体としては、全国の平均正答率と比べると、若干高い傾向にある。また、「記述式」の問題は正答率が高かったが、「観察・実験の技能」については課題である。
- ・無解答率は全国と比べても大きな差は見られなかった。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様な分布を示している。最頻値もほぼ同じである。

課題が見られた主な設問

- 理科：4 (3) 「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる」(正答率 船橋市 38.9 全国 42.7)
- 4 (1) 「ろ過の適切な操作方法を身に付けている」
(正答率 船橋市 67.9 全国 71.1)
- 2 (1) 「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している」
(正答率 船橋市 80.6 全国 83.6)

学習指導のポイント

- ・学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするため、学習問題を既習の内容や生活経験と関連付けて話し合い、根拠をもって自分なりの考えを述べる場を設定することが大切である。
- ・自然の事物・現象を絵や図等を用いて表現することで質的・実体的な視点で捉えることができるようにすることも大切である。
- ・器具の適切な操作方法を身に付けることができるようにするためには、器具の操作の手順の理解だけでなく、対話活動により器具を使用する目的や操作の意味を捉えることができるようにすることが大切である。
- ・科学的な言葉や概念を理解することができるようにするためには、言葉の意味を的確に捉えることができるように、実際の自然の事物・現象に適用した言葉を使って説明する学習活動が大切である。

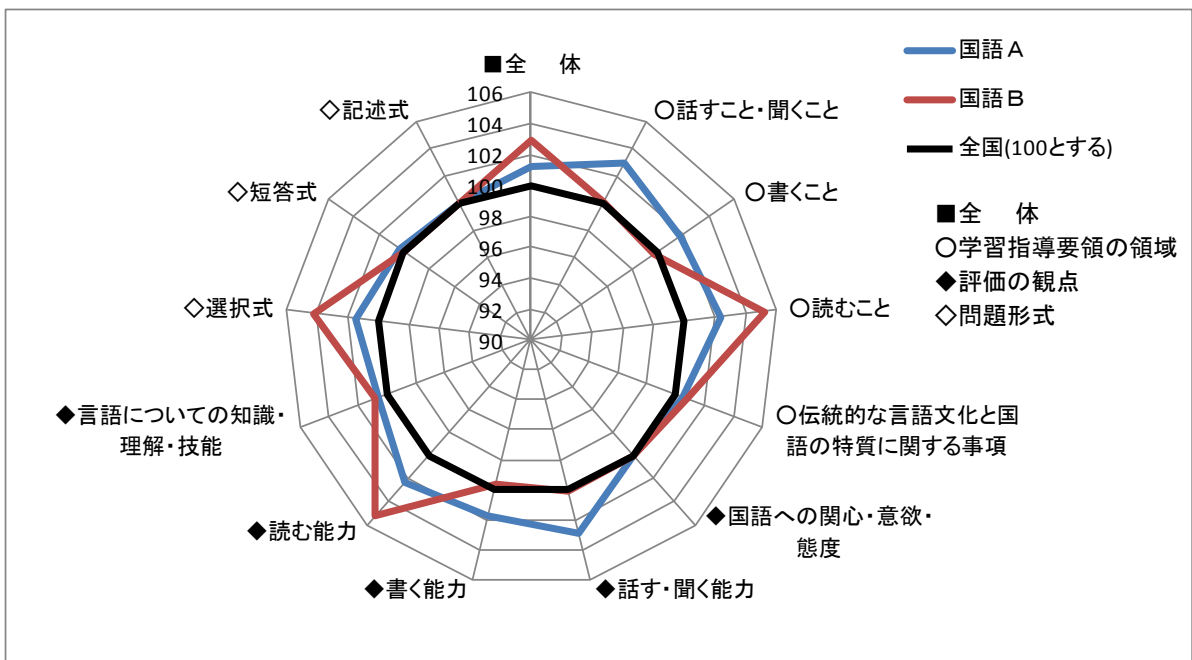
《中学校》 国語

※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

国語		A 主として「知識」に関する問題			B 主として「活用」に関する問題			A知識	B活用	
		船橋市	千葉県	全国	船橋市	千葉県	全国	全国との差	全国との差	
平均正答率(%)	全体	77.0	76.0	76.1	63.0	61.0	61.2	0.9	1.8	
	学習指導要領	話すこと・聞くこと	77.4	76.3	75.2	76.7	75.4	76.6	2.2	0.1
		書くこと	75.2	73.6	73.9	31.2	30.1	31.3	1.3	▲0.1
		読むこと	78.5	76.8	76.7	56.3	54.1	53.5	1.8	2.8
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	76.2	76.5	49.6	48.2	49.2	0.4	0.4
	評価の観点	国語への関心・意欲・態度	/	/	/	50.3	49.4	50.3	/	0.0
		話す・聞く能力	77.4	76.3	75.2	76.7	75.4	76.6	2.2	0.1
		書く能力	75.2	73.6	73.9	31.2	30.1	31.3	1.3	▲0.1
		読む能力	78.5	76.8	76.7	56.3	54.1	53.5	1.8	2.8
		言語についての知識・理解・技能	76.9	76.2	76.5	49.6	48.2	49.2	0.4	0.4
	問題形式	選択式	77.9	77.0	76.8	69.5	67.2	66.7	1.1	2.8
		短答式	75.0	73.9	74.7	/	/	/	0.3	/
		記述式	/	/	/	50.3	49.4	50.3	/	0.0

※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



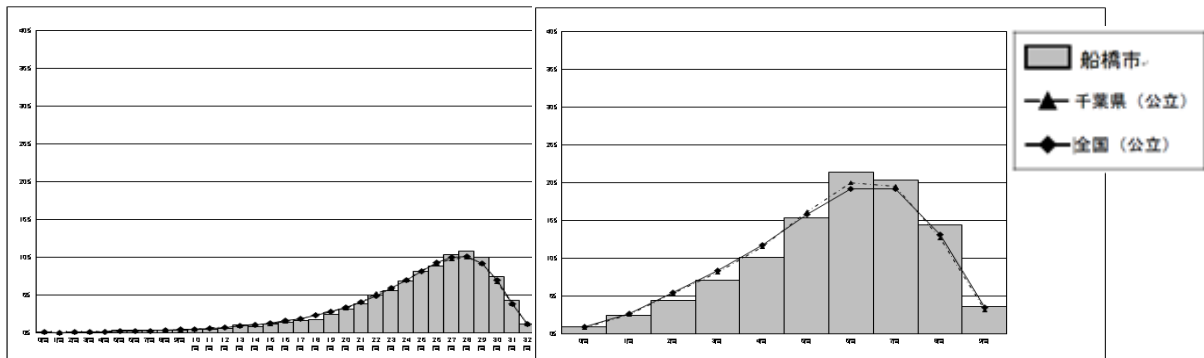
※全国を100として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

※国語Aの「◆国語への関心・意欲・態度」「◇記述式」、国語Bの「短答式」については該当する問題がないため、100（全国と同様）としてグラフを作成。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔国語A〕

〔国語B〕



傾向

- ・全体としては、全国の平均正答率と比べると、国語A・国語Bともに高い結果であった。
- ・無解答率は全国と比べても大きな差は見られなかった。
- ・正答数の分布は、国語A・国語Bともに全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示している。正答数の高い階級での本市の割合は、国語A・国語Bともに上回っている。

課題が見られた主な設問

- 国語A：8六2「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む(とほさざるなし)」
(正答率 船橋市 60.3 全国 63.0)
- 8五「行書の基礎的な書き方を理解して書く」
(正答率 船橋市 51.8 全国 54.4)
- 8ー1「文脈に即して漢字を正しく書く(紙をひもでタバねる)」
(正答率 船橋市 76.4 全国 79.0)

学習指導のポイント

- ・文語の決まりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するように指導することが大切である。
- ・中学校では社会生活に役立つ書写の能力を養うため、楷書よりも速く書くことのできる行書の基礎的な書き方を身に付けさせる必要がある。その際、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどが行書の特徴であることを踏まえて書くように指導することが大切である。
- ・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるようにすることが大切である。また、日常の学習や生活の中でも、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認し、漢字を正しく読んだり書いたりする態度と習慣を養うことが重要である。

《中学校》 数学

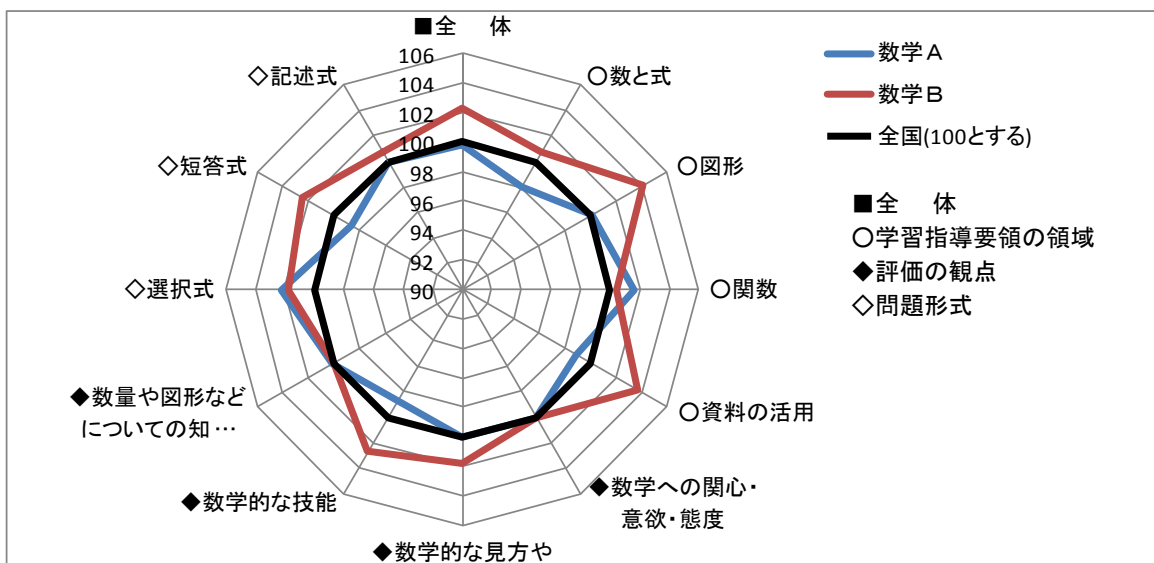
※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

数 学		A 主として「知識」に関する問題			B 主として「活用」に関する問題			A知識	B活用	
		船橋市	千葉県	全国	船橋市	千葉県	全国	全国との差	全国との差	
平均正答率(%)	全 体	66.0	64.0	66.1	48.0	46.0	46.9	▲ 0.1	1.1	
	学習指導要領の領域	数と式	69.7	68.2	71.1	51.8	50.2	51.4	▲ 1.4	0.4
		図形	69.2	67.6	69.1	48.6	45.8	46.7	0.1	1.9
		関数	56.4	53.3	55.5	53.0	51.9	52.8	0.9	0.2
		資料の活用	62.8	61.6	63.5	39.4	37.4	38.0	▲ 0.7	1.4
	評価の観点	数学への関心・意欲・態度	/	/	/	/	/	/	/	/
		数学的な見方や考え方	/	/	/	45.9	44.0	45.1	/	0.8
		数学的な技能	69.5	68.0	70.4	52.7	51.0	51.3	▲ 0.9	1.4
		数量や図形などについての知識・理解	63.4	61.4	63.3	/	/	/	0.1	/
	問題形式	選択式	62.9	59.8	61.5	62.6	61.1	61.5	1.4	1.1
		短答式	69.7	68.1	70.7	57.6	55.6	56.2	▲ 1.0	1.4
		記述式	/	/	/	28.1	26.4	27.9	/	0.2

※斜線は該当する設問が無いもの



平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの

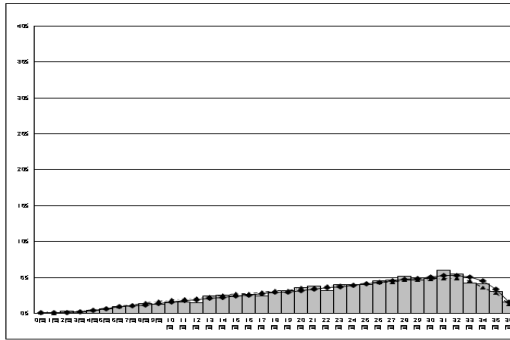


※全国を100として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

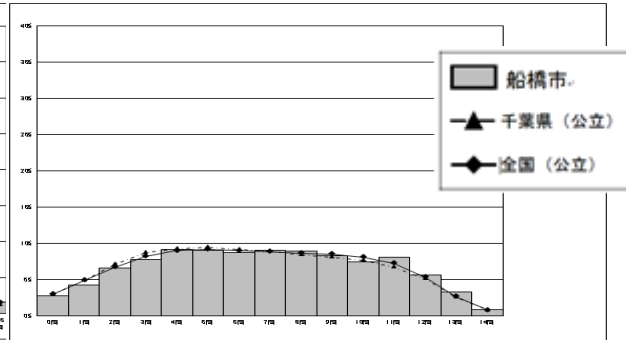
※数学Aの「◆数学的な見方や考え方」「◇記述式」、数学Bの「数量や図形などについての知識・理解」、数学ABの「◆数学への関心・意欲・態度」については該当する問題がないため、100（全国と同様）としてグラフを作成。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔数学A〕



〔数学B〕



傾向

- ・全体としては、全国の平均正答率と比べると、数学A「知識」に関する問題では差はわずか、数学B「活用」に関する問題では、すべての領域で上回っている。
- ・無解答率は、数学Aでは「絶対値の意味を理解している」問題、数学Bでは「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題で全国の割合に比べて高かった。
- ・正答数の分布は、数学Aは全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示している。数学Bは全国と同様に正答数の最頻値が低かった。

課題が見られた主な設問

数学A：1(2)「絶対値の意味を理解している」

(正答率 船橋市 58.9 全国 69.0)

2(1)「数量の大小関係を不等式に表すことができる」

(正答率 船橋市 35.9 全国 41.5)

5(4)「四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解している」

(正答率 船橋市 53.9 全国 57.6)

5(3)「見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる」

(正答率 船橋市 80.4 全国 83.7)

学習指導のポイント

- ・「絶対値」などの用語は、知識として暗記させるのではなく、実際に数直線上に表す作業を通して「数直線上における原点からの距離が絶対値である」という意味を理解させる。
- ・事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いて立式し、不等号をつかって表す際に、「以上」と「より大きい」を混同している生徒がいる。記号を正しく用いることができるよう繰り返し練習問題に取り組ませる。
- ・身近な立体について視点を決めて観察したり、模型を用いた実験による測定をしたりする活動を通して、空間図形についての理解を深めることが大切である。
- ・話し合い活動については、単元全体を見通し、多様な意見が出る課題など意見交流により効果が期待できる場面で取り入れる。知識・技能の確実な定着を目指し、授業時間内に適用問題に取り組む時間を設定する。

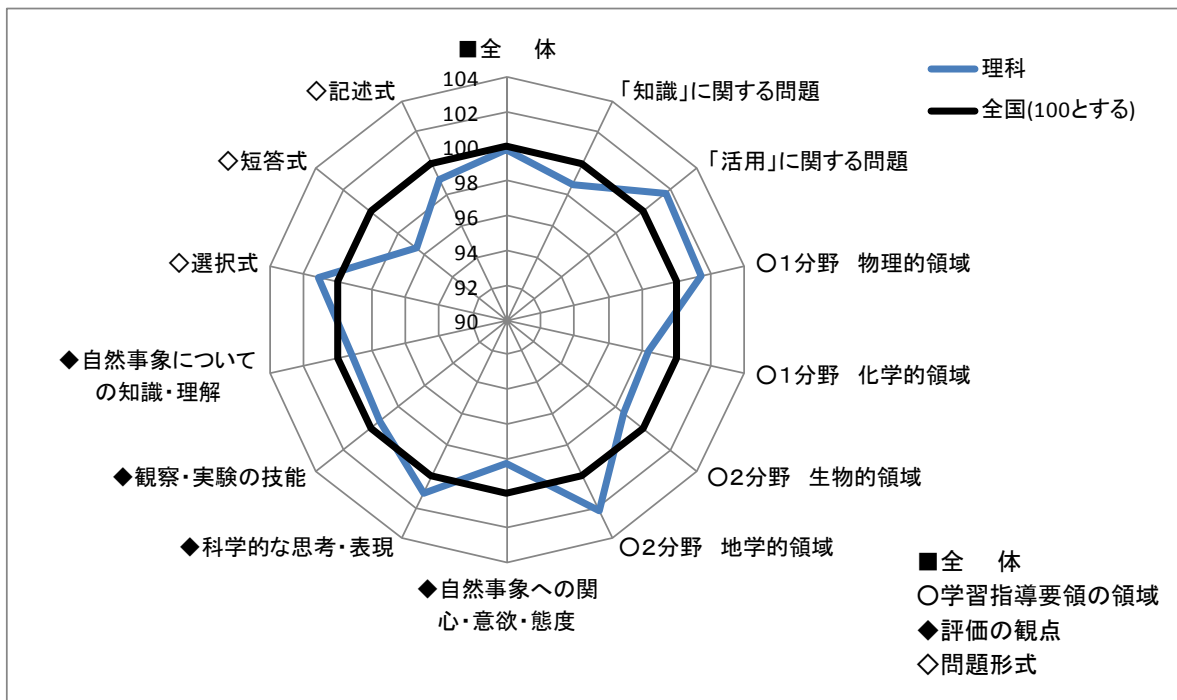
《中学校》 理科

※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

理 科		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
平均正答率(%)	全 体	66.0	65.0	66.1	▲ 0.1	
	枠組み	主として「知識」に関する問題	67.0	66.0	67.9	▲ 0.9
		主として「活用」に関する問題	66.0	64.0	64.9	1.1
	学習指導要領の領域	1分野 物理的領域	75.5	74.2	74.4	1.1
		1分野 化学的領域	63.9	62.7	65.0	▲ 1.1
		2分野 生物的領域	71.5	70.9	72.5	▲ 1.0
		2分野 地学的領域	59.1	57.6	57.8	1.3
	評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	72.7	72.1	74.0	▲ 1.3
		科学的な思考・表現	65.6	64.5	64.9	0.7
		観察・実験の技能	66.6	65.4	67.0	▲ 0.4
		自然事象についての知識・理解	68.1	66.6	68.7	▲ 0.6
	問題形式	選択式	71.7	70.1	70.9	0.8
		短答式	67.8	67.9	70.2	▲ 2.4
		記述式	49.6	48.6	50.1	▲ 0.5

※斜線は該当する設問が無いもの

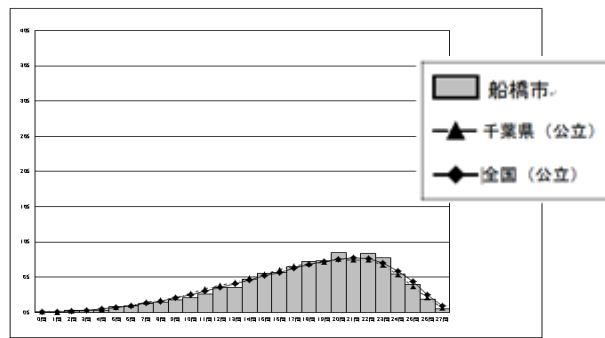
平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を 100 として船橋市との比較を百分率で表したグラフ

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔理科〕



傾向

- ・全体としては、全国の平均正答率と比べると、若干高い傾向にある。「記述式」の問題は正答率が高かったが、「観察・実験の技能」については課題である。また、「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」問題での無回答率の割合が、全国と比べて高かった。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示しており、最頻値の人数の割合は、全国・県よりも高かった。

課題が見られた主な設問

理科：5 (1) 「神経系の働きについての知識を身に付けている」

(正答率 船橋市 47.2 全国 57.2)

2 (2) 3.0%の濃度「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」

(正答率 船橋市 40.0 全国 46.9)

9 (1) 「植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている」

(正答率 船橋市 84.1 全国 88.0)

学習指導のポイント

- ・動物が外界の刺激に適切に反応する仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと働きとを関連付けて捉える上で、外界からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こることを、観察・実験や日常の経験などを通して理解する学習場面を設定することが大切である。
- ・水溶液の濃度を量的に扱うためには、溶質と溶媒の割合の関係を視覚的に捉えられるようにしたり、生徒が水溶液の質量から溶質と溶媒の質量を計算し、実際に水溶液をつくる学習場面を設定したりすることが大切である。
- ・蒸散の働きを気孔や茎の断面の構造、葉、茎、根のつくりと関連付け、生命を維持する働きの観点から理解し、実験の結果に基づいて蒸散と吸水を考察する学習場面を設定することが大切である。

(2) 設問別の状況

①平均正答率が高い設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差を表す）

《小学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語B	1二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	3.2
国語A	4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	2.5
国語B	3一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	1.8
国語A	2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	1.7
国語A	3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	1.6

教科名	設問番号	設問の概要	差
算数B	2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	2.5
算数B	2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何かを書く	1.9
算数A	1(1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	1.9
算数A	2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	1.9
算数B	4(2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	1.8

教科名	設問番号	設問の概要	差
理科	4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	3.4
理科	1(2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	3.2
理科	3(3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	2.5
理科	2(2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の	2.1
理科	3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	1.7

《中学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語B	3二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	6.8
国語B	1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	4.7
国語A	8三ア	適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった）	4.3
国語A	8一2	漢字を書く（舞台のマクが上がる）	3.4
国語A	8三エ	適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）	3.1

教科名	設問番号	設問の概要	差
数学A	7(1)	$\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	3.2
数学B	4(2)	平行四辺形 $ABCD$ の外側に2つの点 E, F を取っても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形となることの証明を完成する	3.2
数学A	3(1)	一元一次方程式 $6x - 3 = 9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	2.6
数学A	9(1)	比例 $y = 5x$ について、正しい記述を選ぶ	2.4
数学A	5(2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	2.0

教科名	設問番号	設問の概要	差
理科	3(2)	太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を身に付けている	4.2
理科	6(1)	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	3.0
理科	5(2)	反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる	2.6
理科	8(2)	発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる	1.9
理科	2(4)	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	1.8

②平均正答率が低い設問(「差」は、本市と国との平均正答率の差を表す)

《小学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語A	8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)	▲ 2.7
国語A	8エ	文の中で漢字を使う(かん理)	▲ 2.8
国語B	1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、[]を書く	▲ 3.6
国語A	5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と-----部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	▲ 6.7
国語A	8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)	▲ 9.0

教科名	設問番号	設問の概要	差
算数A	9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	▲ 2.6
算数B	1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	▲ 4.6
算数A	4(1)	面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	▲ 5.2
算数A	7(2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	▲ 6.4
算数A	1(2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	▲ 8.2

教科名	設問番号	設問の概要	差
理科	2 (1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	▲ 3.0
理科	4 (1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	▲ 3.2
理科	4 (3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	▲ 3.8

《中学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語B	2 三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	▲ 1.2
国語A	8 一 1	漢字を書く（紙をひもでタバねる）	▲ 2.6
国語A	8 五	作品への助言として適切なものを選択する	▲ 2.6
国語A	8 六 2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	▲ 2.7

教科名	設問番号	設問の概要	差
数学A	2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	▲ 2.1
数学A	5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	▲ 3.3
数学A	5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	▲ 3.7
数学A	2 (1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは 15 kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	▲ 5.6
数学A	1 (2)	絶対値が6である数を書く	▲ 10.1

教科名	設問番号	設問の概要	差
理科	4 (2)	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	▲ 1.8
理科	4 (3)	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	▲ 2.2
理科	9 (1)	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	▲ 3.9
理科	2 (2)	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	▲ 6.9
理科	5 (1)	神経系の働きについての知識を身に付けている	▲ 10.0

3 質問紙調査の結果について

(1) 児童生徒質問紙

①調査結果〔学習に対する関心・意欲・態度についての調査項目〕

《小学校》

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

- ・授業以外に1日30分以上読書をする（船橋市44.8 全国41.1）【+3.7】
- ・理科の授業が面白いと思う（船橋市89.2 全国87.5）【+1.7】
- ・社会の事柄や自然の事柄に、「不思議だな」「面白いな」と思う
（船橋市83.7 全国82.0）【+1.7】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

- ・家で予習・復習やテスト勉強などに教科書を使っている
（船橋市60.4 全国69.9）【-9.5】
- ・家で授業の予習・復習をしている（船橋市55.2 全国62.6）【-7.4】
- ・授業時間以外に1日1時間以上勉強している
（船橋市60.3 全国66.2）【-5.9】
- ・5年までの授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わ
ったりする機会があったと思う（船橋市68.8 全国74.4）【-5.6】
- ・家で計画を立てて勉強している（船橋市62.8 全国67.6）【-4.8】

《中学校》

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

- ・理科の授業では、理科室で週1回以上観察や実験を行っている
（船橋市65.0 全国40.7）【+24.3】
- ・観察や実験を行うことが好き（船橋市83.6 全国82.1）【+1.5】
- ・授業以外に1日30分以上読書をする（船橋市32.3 全国30.9）【+1.4】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

- ・1、2年の授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わ
ったりする機会があったと思う（船橋市58.8 全国68.7）【-9.9】
- ・家で授業の予習・復習をしている（船橋市47.9 全国55.2）【-7.3】
- ・理科の授業で学習したことは、社会に出たとき役に立つと思う
（船橋市48.9 全国55.7）【-6.8】
- ・数学の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考える
（船橋市32.7 全国38.7）【-6.0】
- ・家で計画を立てて勉強している（船橋市46.8 全国52.1）【-5.3】

②調査結果〔基本的生活習慣、学校生活等についての調査項目〕

《小学校》

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る
（船橋市89.4 全国86.2）【+3.2】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
(船橋市64.9 全国63.8) 【+1.1】
- ・家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする
(船橋市81.4 全国80.5) 【+0.9】
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ている (船橋市77.8 全国77.0) 【+0.8】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある
(船橋市25.5 全国36.1) 【-10.6】
- ・今住んでいる地域の行事に参加している
(船橋市52.4 全国62.7) 【-10.3】

《中学校》

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

- ・新聞を読んでいる (船橋市16.0 全国13.9) 【+2.1】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある
(船橋市33.6 全国51.8) 【-18.2】
- ・今住んでいる地域の行事に参加している
(船橋市33.8 全国45.6) 【-11.8】
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
(船橋市32.8 全国38.7) 【-5.9】
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
(船橋市53.4 全国59.3) 【-5.9】

③考察

学習に対する関心・意欲・態度の項目では、小・中学校で「授業以外に1日30分以上読書をする」「理科の授業が面白いと思う」「観察や実験を行うことが好き」と答えた児童生徒の割合が他の項目に比べ高く、教科に関する調査結果が小学校の国語A・算数Aを除いて全国の平均正答率を上回っていることにつながっていると思われる。

小学校では「家で授業の予習・復習をしている」「1日1時間以上勉強をしている」「家で計画を立てて勉強をしている」の項目、中学校でも「家で授業の予習・復習をしている」「家で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒の割合が他の項目に比べて低い。家庭での学習時間が確保されていないことがうかがえる。しかし、中学校では「学習塾等を含めて1日1時間以上勉強をしている」と答えている割合が高くなることから、家庭で過ごす時間が少ないことや塾に行っていることを理由に家庭学習に十分時間をかけていないことも考えられる。また、児童生徒質問紙と平均正答率の相関関係から、小・中学校ともに「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童生徒の平均正答率が

高いことも注目すべき点である。今後は家庭学習の習慣化を図るために、家庭での過ごし方を分析したうえで、家庭学習の取り組み方や適切な課題を与える等の支援が必要である。

基本的な生活習慣や学校生活等の項目については、小学校では「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の割合が高く、興味・関心の高さがうかがえる。しかし、中学校では「新聞を読んでいる」の割合が高いのに、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の割合が低い。

また、昨年同様、小・中学校ともに、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合が非常に低く、学校質問紙においても「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った」と回答した割合が低い。今後、児童生徒が地域と関わっていくような取組を、学校・地域・家庭が連携して考えていく必要がある。

(2) 学校質問紙

①調査結果

《小学校》

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

- ・ 職場見学や職場体験活動を行った **【+24.7】**
- ・ 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行った **【+19.3】**
- ・ 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えた **【+ 8.4】**
- ・ 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った **【+ 6.6】**
- ・ 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行った **【+ 6.0】**

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

- ・ 前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った **【-47.3】**
- ・ 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った **【-24.2】**

- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした（国語/算数共通） 【-23.0】
- ・調査対象日現在の第6学年の児童が、第6学年に進級する際に、クラス替えをした 【-22.7】
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った 【-21.4】
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした 【-20.4】

《中学校》

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されている 【+91.9】
- ・調査対象学年である第3学年の生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った 【+21.5】
- ・調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度に、理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った 【+19.7】
- ・校長は、校内の授業をほぼ毎日見て回っている 【+18.6】
- ・調査対象である第3学年の生徒に対する指導において、前年度に、生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たり週1回以上行った 【+14.6】
- ・学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行った 【+11.5】

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

- ・前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った 【-39.5】
- ・平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した 【-34.4】
- ・前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った 【-32.2】
- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えた 【-28.5】

- ・調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導した 【-22.4】
- ・調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている 【-21.5】

②考察

小学校では、「職場見学や職場体験活動を行った」「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った」の項目で肯定的な回答をした学校の割合が高かった。中学校では、理科実験事務員を全校配置していること、全普通教室に電子黒板を配備していること、PC室のパソコンをリプレイスしたことから「理科の授業やその準備において、観察実験補助員が配置されている」「理科室で観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った」「教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った」「生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たり週1回以上行った」の項目が、全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が非常に高かった。

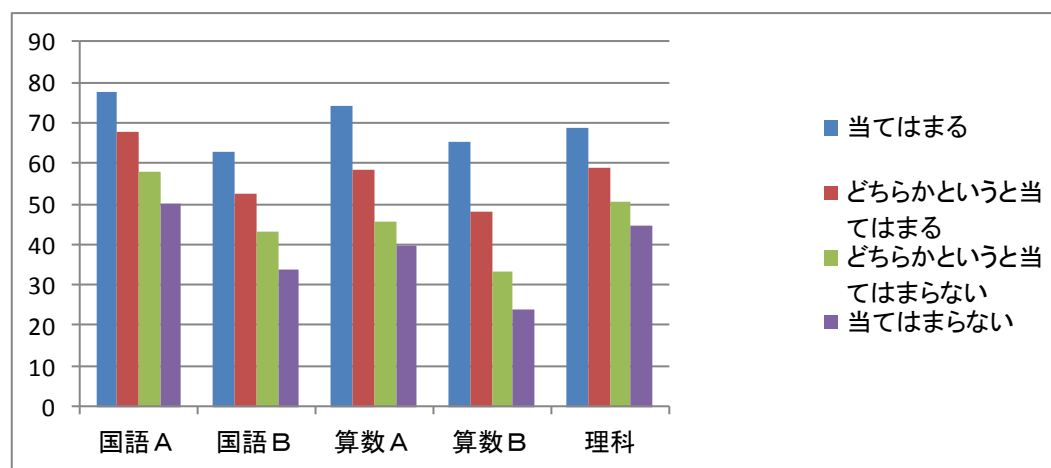
課題は、昨年度と同様に「近隣の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」「近隣の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」と答えた学校の割合が全国に比べ低かったことである。小・中学校間の連絡や話し合いの機会を設けたり、小中合同の研修会の開催、相互の授業参観、教科の系統性などを考えた研究授業等に取り組む等、連携を図る必要がある。

(3) 児童生徒質問紙と学力調査の平均正答率における相関関係

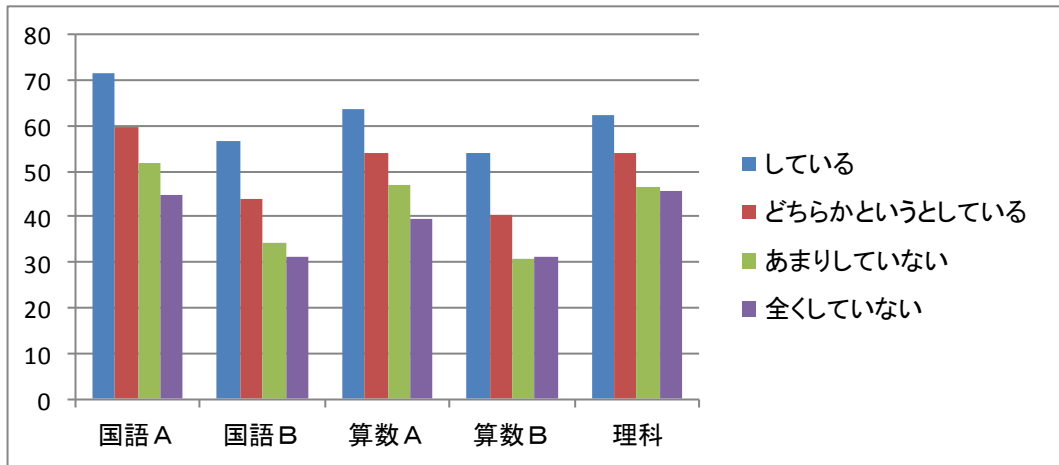
グラフの数値は、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率を表す。特に、以下の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒は平均正答率が高い傾向にある。

《小学校で相関の高い項目》

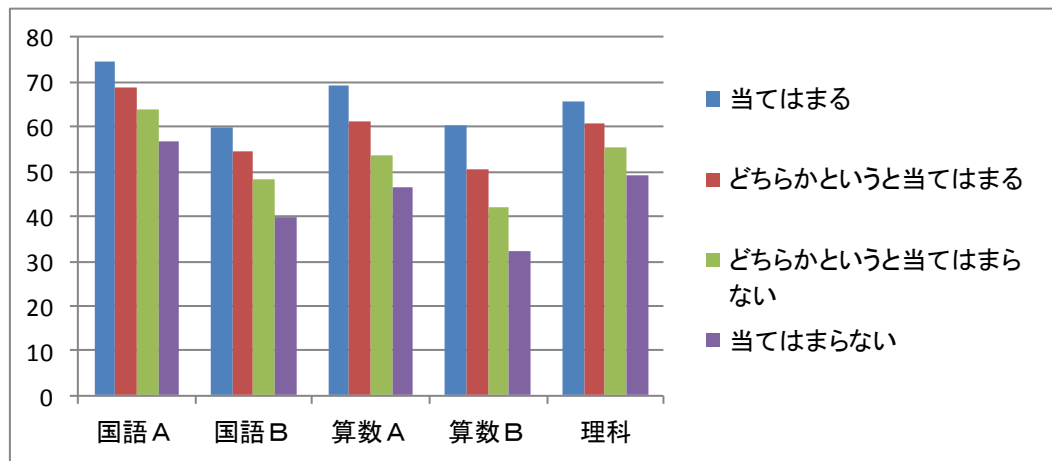
① 算数の授業の内容はよく分かりますか



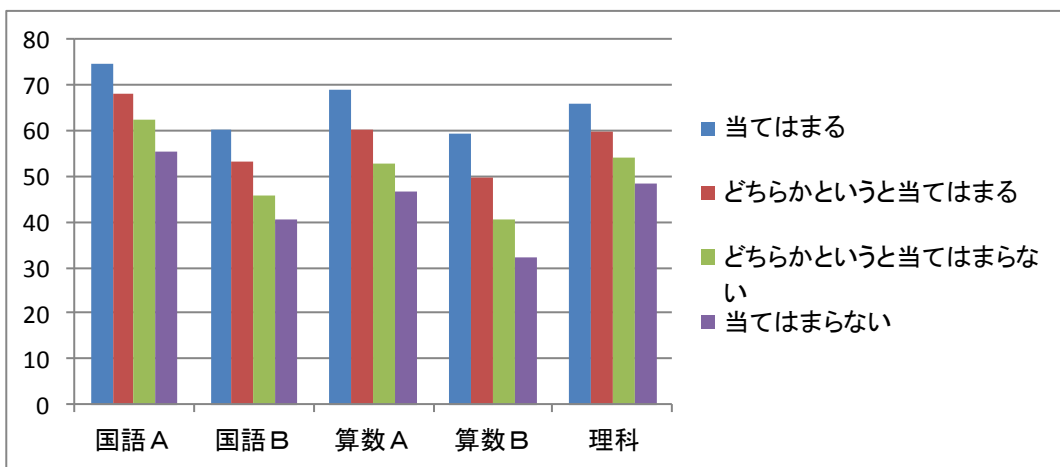
② 家で学校の宿題をしていますか



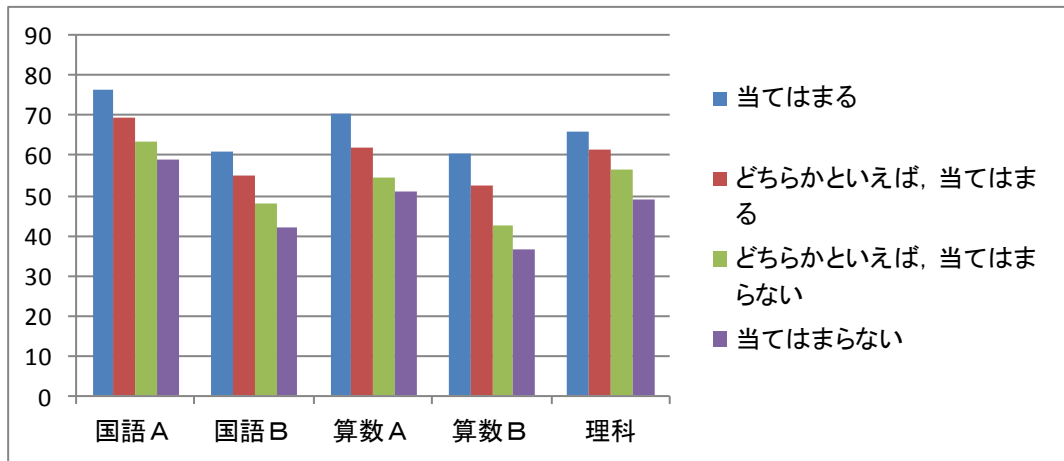
③ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



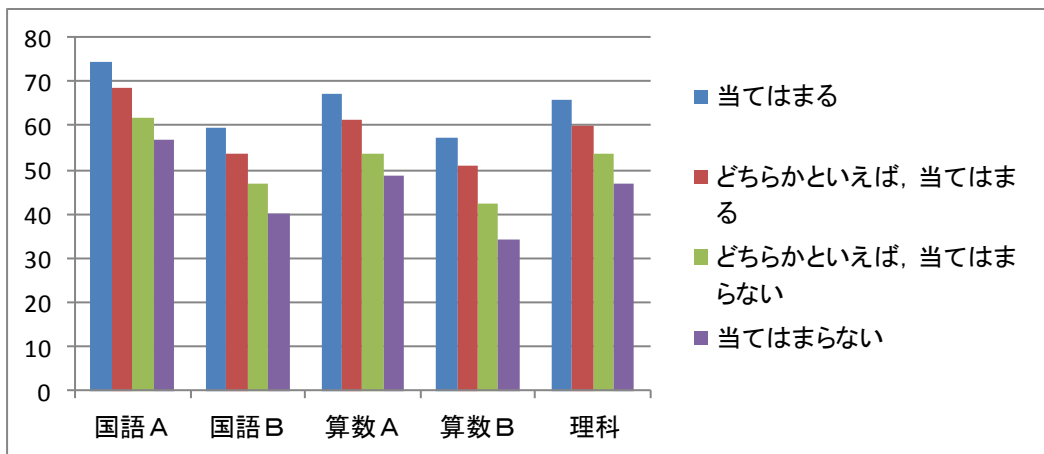
④ 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



⑤ 5年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

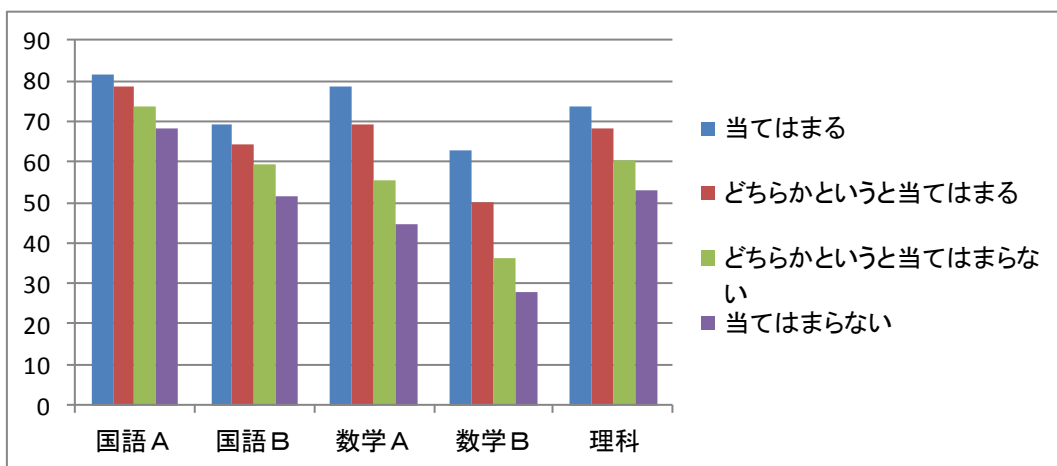


⑥ 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

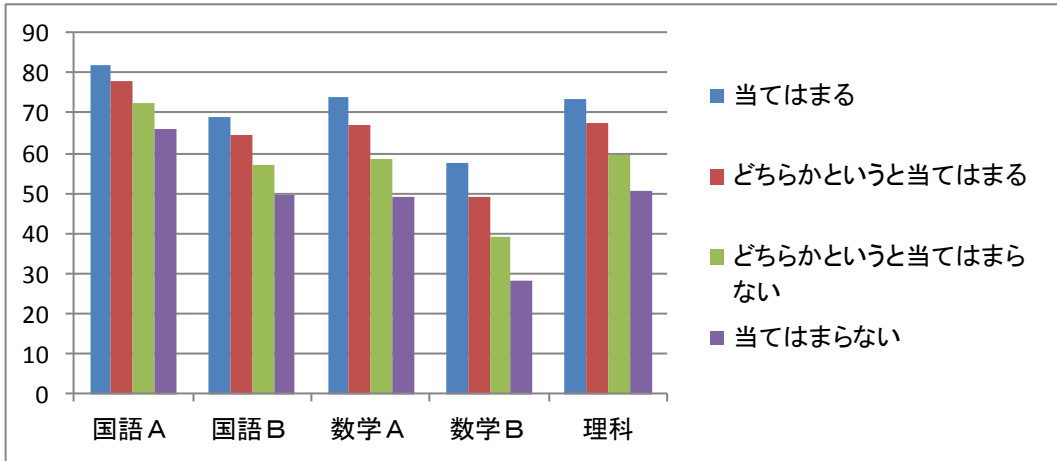


《中学校で相関の高い項目》

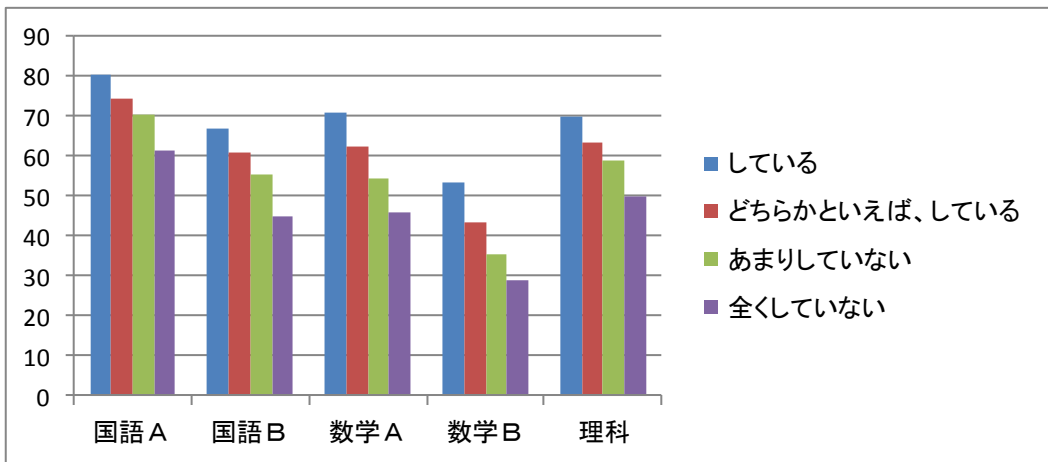
① 数学の授業の内容はよくわかりますか



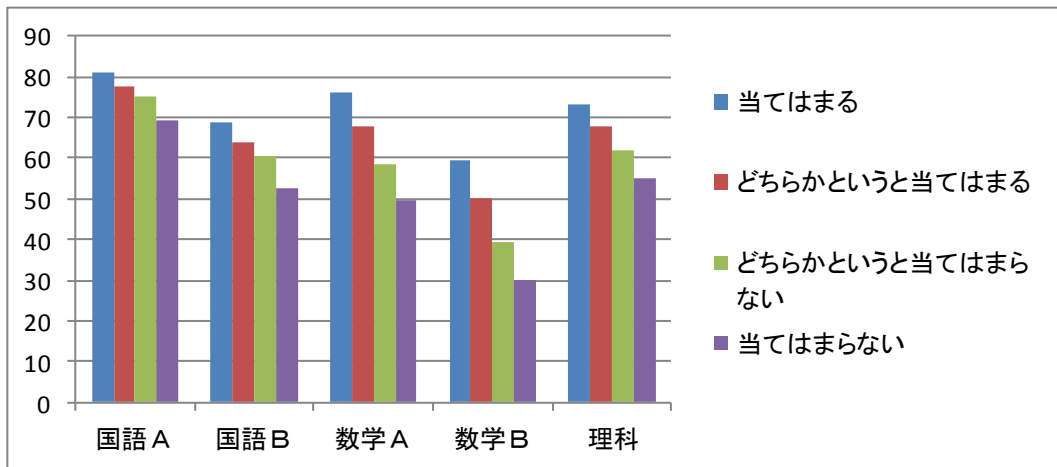
②理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか



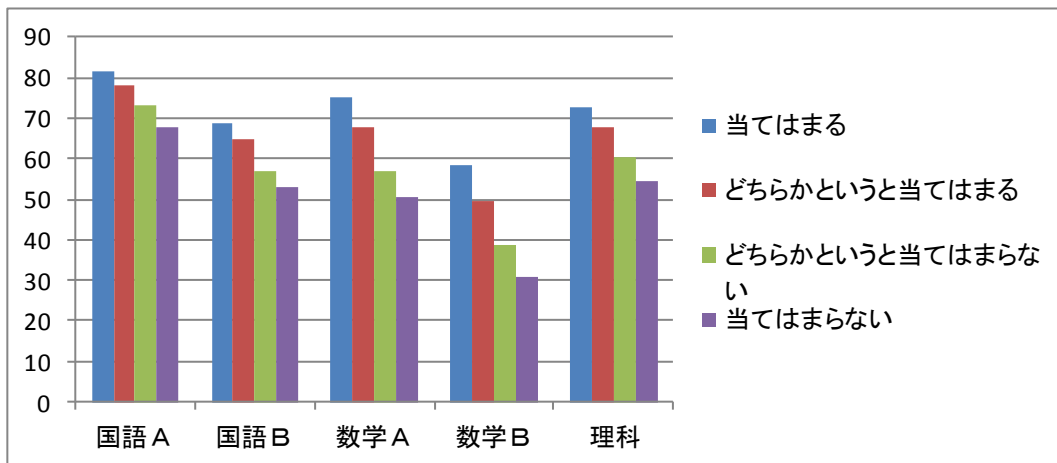
③家で、学校の宿題をしていますか



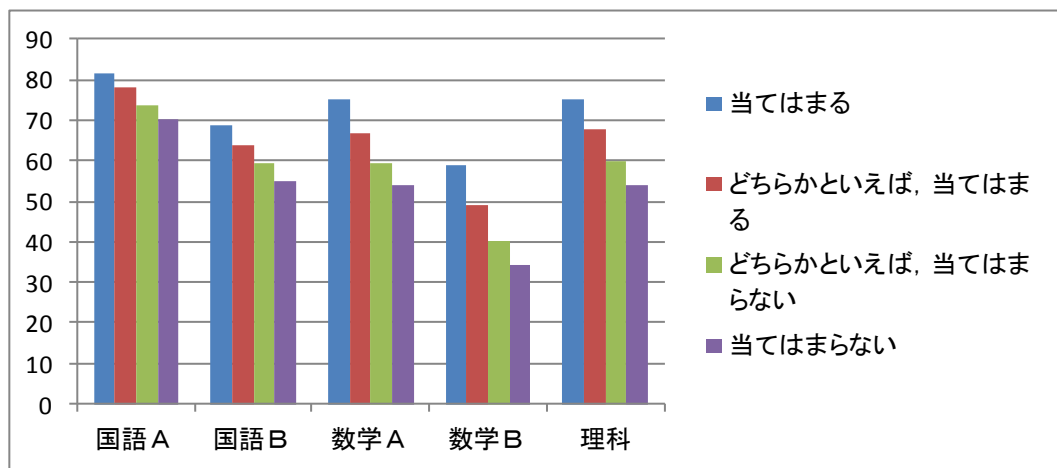
④数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



- ⑤ 1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



- ⑥理科の授業の内容はよく分かりますか



4 調査結果の今後の活用について

- (1) 学校は、調査結果をもとに、自校の学力・学習状況を分析する。自校の分析結果から、課題となる学力や学習状況を明確にし、授業での具体的な方策（言語活動の充実、文章表現による記述等）を取り入れるなど指導法の改善を図る。更に家庭に情報提供し、自校の児童生徒の学力向上に努める。
- (2) 教育委員会は、県・全国の平均正答率や質問紙の回答状況と比較し、分析することで施策の立案や改善を図る。また、分析結果から、各教科の課題が見られた項目を踏まえ、授業の改善・教員の指導力向上の指導・助言を行い、児童・生徒が主体的に取り組む学習活動の充実が図れるよう各学校を支援する。

5 留意事項

調査結果については、測定できるのは学力の一部であることを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないよう十分配慮する。